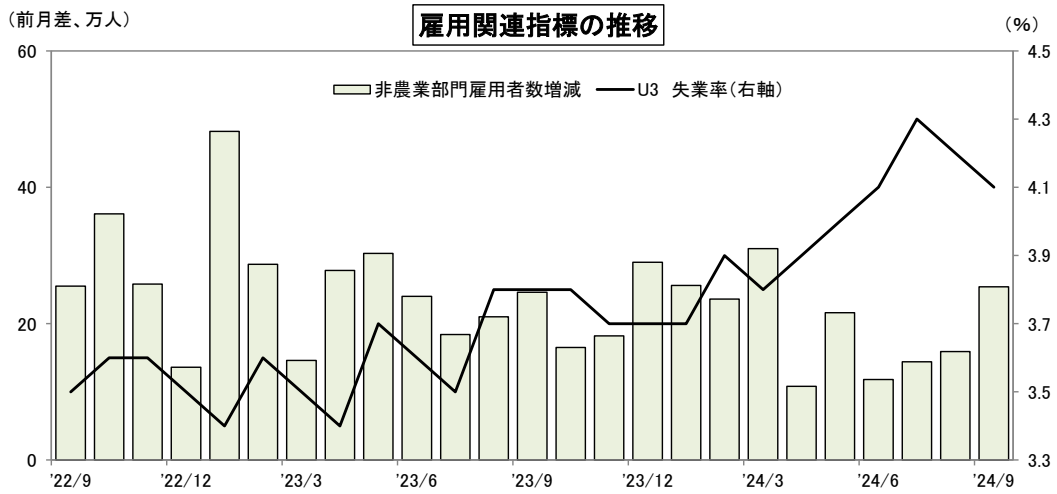
リサーチ＆ソリューション第１部　佐古 佳史

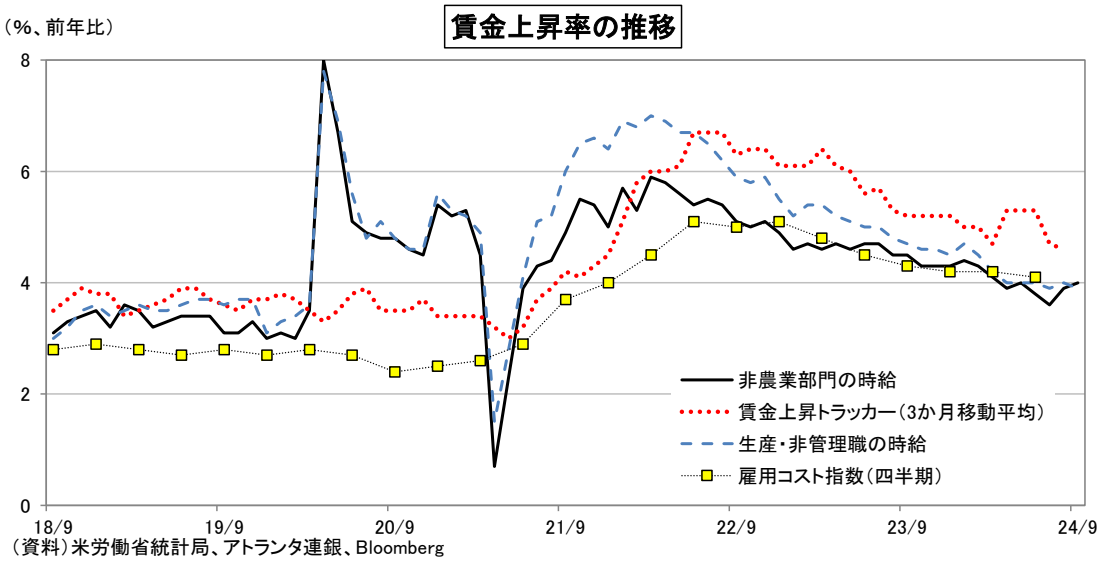
（米国）労働市場の底堅さを示した９月雇用統計

９月の雇用統計を確認すると、非農業部門雇用者数は前月から 25.4 万人増（事業所調査）と堅調な伸びとなった。7、8 月分は合計 7.2 万人上方修正されたこともあり、3 か月平均は 18.6 万人増となった。また、失業率は 2 か月連続で低下し 4.1%となった。



（資料）米労働省、米議会予算局、Bloombergより農中総研作成

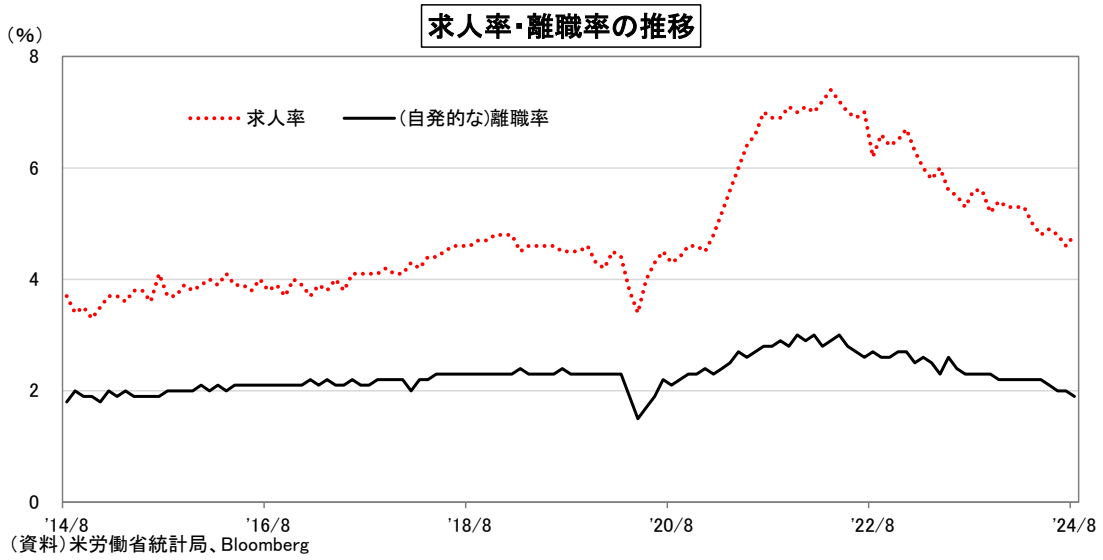
９ 月の非農業部門民間平均時給は前年比 4.0%（前月比 0.4%）、生産・非管理職の時給は同 3.9%（同 0.3%）の上昇となり、前月からほぼ変わらなった。賃金上昇率は鈍化傾向が一段落となり、2%物価目標と整合的な上昇率と思われる前年比 3%半ばと比べると、やや高い状態が続いている。



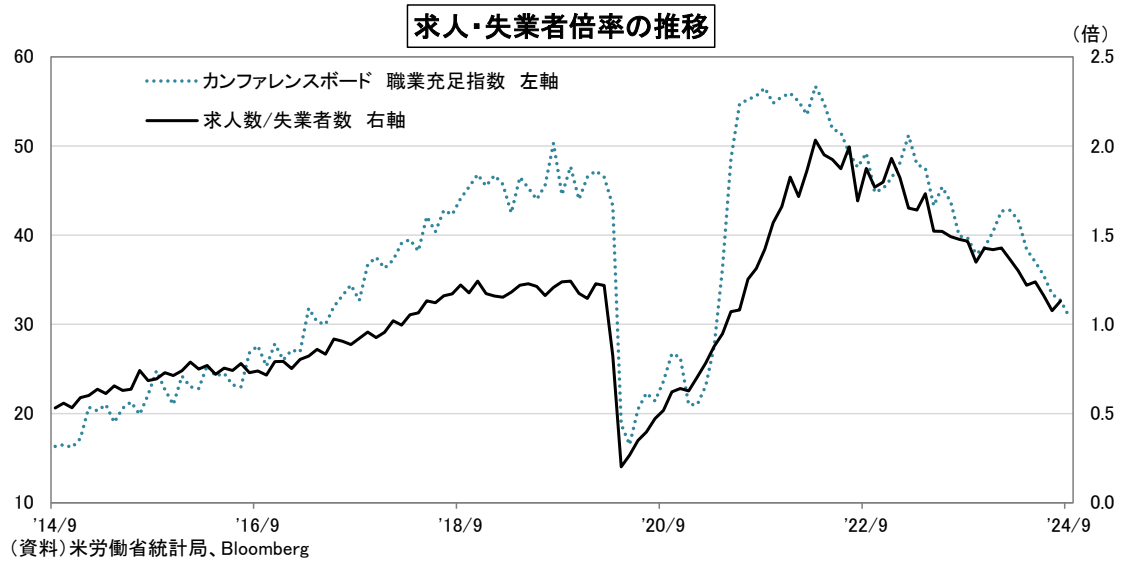
（資料）米労働省統計局、アトランタ連銀、Bloomberg

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/

8 月の求人労働異動調査によると、求人数は前月から 33 万人増加の 804 万となり、求人率（＝求人数÷（求人数＋雇用者数））は 0.2 ポイント上昇の 4.8%、自発的な離職率は 0.1 ポイント低下の 1.9%となった。



求人数と失業者数の比率をみると、8 月は職を選ばなければ 1 人の失業者に対して 1.13 倍の求人が確認された。4 月以降、同比率はコロナ禍前の水準に戻っている。



労働市場が減速傾向を示すなかでの発表となった 9 月の雇用統計では、雇用増加ペースの加速と失業率の低下が確認されたことで、足元の労働市場悪化懸念が行き過ぎであった印象を与えた。また、賃金上昇率が下げ渋っていることから、今後のインフレ率の鈍化も順調なペースでは進まない可能性が示唆された。

市場では、9 月 FOMC 以降も大幅な利下げが継続するとの織り込みが強かったものの、9 月雇用統計を受けて利下げペースは再考され、10 月 7 日時点では 11 月、12 月 FOMC でのそれぞれ 25bp利下げが中心的な織り込みとなっている。

ここに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます　https://www.nochuri.co.jp/